

血対ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	新出文 献
70112	2007/09/ 28	70553	細菌感 染	Transfusion 2007; 47: 1134-1142	アメリカ赤十字で2004年3月1日～2006年5月31日の期間に1,004,206例の供血で細菌培養検査が行われ、その内186例が陽性であった。関連するアフェレーシス血小板293製剤のうち1件を除くすべての輸血が回避された。両腕法を用いて採取した場合の細菌培養陽性率は、片腕法と比較して有意に高かった。また、スクリーニング陰性の製剤に関係した敗血症性輸血反応が20例(うち死亡3例)報告されたが、両腕法を用いて採取した場合の頻度は片腕法と比較して4.7倍であった。	47
70107	2007/09/ 21	70537	鳥イン フルエ ンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1081-1083	高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1)を含むインフルエンザウイルスが、血液安全性の脅威となるおそれがある。ミニプール核酸増幅法を用いて10,272例の血液ドナー検体を分析した。この検査法の測定感度は、一般的インフルエンザウイルス用プライマーについては804 geq/ml、インフルエンザ(H5N1)サブタイプ特異的プライマーでは444 geq/mlであった。インフルエンザウイルスに対して、このようなスクリーニング検査が可能であることが示された。	48
70162	2007/11/ 21	70750	鳥イン フルエ ンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1348-1353	2006年5月にインドネシアのスマトラ北部でおよび2005年12月にトルコ東部の家族で観察されたトリインフルエンザH5N1の集団が、ヒト-ヒト伝播によるか否かを統計的方法を用いて調べた。スマトラの例ではヒト-ヒト伝播の統計学的エビデンスが見られ、概算された2次感染率は29%、局所的増殖数の下限値は1.14であった。トルコの例ではヒト-ヒト伝播のエビデンスは得られなかった。	
70162	2007/11/ 21	70750	鳥イン フルエ ンザ	Lancet 2007; 370: 1137- 1145	H5N1インフルエンザウイルスに感染した男性1名および妊婦1名とその胎児の剖検組織を調べた。肺のⅡ型上皮細胞、気管の上皮細胞、リンパ節のT細胞、脳の神経細胞及び胎盤のホフバウエル細胞と細胞栄養層でウイルス遺伝子配列と抗原が検出され、腸粘膜ではウイルス遺伝子配列のみが検出された。胎児では肺、末梢単核細胞、肝マクロファージに遺伝子配列と抗原が検出された。本ウイルスは肺だけでなく気管に感染し、脳を含む他の器官に拡がり、また胎盤を通過し、母親から胎児にも伝播する。	50
70103	2007/09/ 21	70533	鳥イン フルエ ンザ	Transfusion 2007; 47: 452- 459	血漿製剤の製造中に通常使われるウイルス不活性化処理、即ち、ヒトアルブミンのパストリ、静注用免疫グロブリン(IVIG)のSD処理、第Ⅷ因子インヒビターバイパス複合体製剤の蒸気加熱、及びIVIGの低pHインキュベーションが、H5N1インフルエンザウイルス不活化に有効かを再集合体株を使って調べた。その結果、H5N1インフルエンザウイルスは、エンベロープウイルスと同様の挙動を示し、これらのウイルス不活性化処理によって効果的に不活化された。	
70103	2007/09/ 21	70533	伝染性 紅斑	Vox Sanguinis 2007; 92: 121- 124	ハプトグロビンおよび抗トロンビンの2つの異なる調整液にヒトパルボウイルスB19を加え、60°Cで10時間処理した。異なる溶液中のB19は加熱中異なる熱感受性パターンを示し、ハプトグロビン調整液中では緩やかな不活性化、抗トロンビン調整液中では限定的な不活性化であった。異なる調整液を用いた以前の研究ではB19は迅速に不活性化され、今回の不活性化の動力学とは大きく異なった。B19の熱感受性は溶液組成に大きく依存する。	